

メインフレーム製品であるエンタープライズサーバ「AP8000EX」とオペレーティングシステム「VOS3/LS」において内部統制支援機能などを拡充



エンタープライズサーバ「AP8000EX」

日立製作所 情報・通信グループ(グループ長&CEO:篠本 学、以下 日立)は、このたび、メインフレーム製品であるエンタープライズサーバ「AP8000EX」およびオペレーティングシステム「VOS3/LS」において、金融商品取引法による内部統制報告制度(通称:日本版 SOX 法)への対応として、セキュリティ機能や監査支援機能などを強化し、2月23日から販売を開始します。

企業活動の社会的責任が高まる中、経営情報の適正性を確保するための実績報告と監査を義務付ける金融商品取引法が2008年4月から適用され、内部統制への対応が必要不可欠となります。ITシステムにおいても、データへのアクセス制御や、参照・操作の履歴管理・保管などを効率的かつ適切に支援する役割が求められています。

そこで今回、基幹情報システムの中核を担う「AP8000EX」および「VOS3/LS」においても、内部統制を支援するセキュリティ機能や業務の適正化を示すことができる監査情報の拡充、および運用性向上を図りました。また、ユーザーの既存業務を有効に活用し、迅速に新たな業務を構築できるサービス指向アーキテクチャー(以下、SOA)基盤との連携機能も強化しました。

日立は今後も、ユーザーの既存資産を継承し、高信頼、高可用な基幹情報システムの構築をサポートする製品の提供と運用支援を継続していきます。

製品強化の特長

1. 日本版 SOX 法対応セキュリティ機能の強化

(1) 監査証跡の拡充

メインフレーム向けデータベースである統合 DB/DC システム「XDM」において、システムへの侵入、不正アクセスの監査情報として、これまでのユーザー認証結果、ユーザーID、アクセス時刻、データや業務プログラムといったユーザー資産などの情報に加え、XDM 運用コマンドの実行履歴も取得可能です。

(2) オンライン業務の認証機能を強化

データコミュニケーションマネジメントシステム「XDM/DCCM3」のトランザクション処理において、「総合利用者管理機能」と連携することにより、アクセス権の認証機能を強化しました。ユーザーID での認証に加え、使用端末名称認証を追加したことで、なりすましなど不正な端末を利用したXDM へのアクセスを防止できます。

(3) 監査証跡情報の管理・運用性を向上

監査証跡情報の複数データセットへの分散出力およびマージ機能を提供し、情報の管理・運用性の向上を図ります。

(4) 暗号化アルゴリズム AES(*1)をサポート

暗号ライブラリ「VOS3/Keymate」の暗号アルゴリズムに電子政府推奨暗号として認定されたAESをサポートしました。データセットの暗号/復号化を行うユーティリティも提供するため、プログラムを作成することなく容易にデータの暗号化が可能です。

*1) AES(Advanced Encryption Standard): 米国政府の次世代標準暗号化方式でブロック暗号方式の一種。日本の電子政府推奨暗号としても認定。

2. SOA 対応機能を強化

SOAに基づいたアプリケーション基盤ミドルウェアのシステム実行環境uCosminexus Service Platformと連携することで、VOS3/LS上の業務をオープンサーバ上の業務のように利用することが可能です。これにより、プログラムを変更することなく、VOS3/LS上の業務とオープンサーバ上の業務を組み合わせることができ、新しい業務システムを迅速に構築することが可能です。

3. 仮想テープ機能適用拡大や運用性向上によるストレージ管理機能を強化

日立ディスクアレイサブシステム「SANRISE」で磁気テープ装置エミュレーションを行う仮想テープ機能「DMFVTLs」において、JIS ラベル形式を新たにサポートしました。これにより、すべてのラベル形式において、仮想テープ機能が利用可能になります。また、仮想テープ機能利用時のテープマウント操作やコマンド投入の自動化により、運用性の向上を図ります。

4. アクセラレートプロセッサの適用処理を拡大

命令プロセッサの負荷を抑え、仮想テープ機能「DMFVTLs」やオープン系テープ装置「LTO(*2)ライブラリ装置」へのバックアップ機能「DMFOPDS」など特定処理を実行するアクセラレートプロセッサにおいて、メインフレーム帳票オープン連携支援「Print Data Exchange 分散ライター」(*3)、データベースレプリケーション機能「XDM/XT」(*4)、「VOS3/Keymate」(AES 暗号ユーティリティ)を新たにサポートしました。

これにより、アクセラレートプロセッサ上で、メインフレーム帳票データのオープン環境への転送、データベースの一括反映、AES での暗号化などができるようになり、積極的な業務の拡大や新規業務の導入を支援します。

*2)LTO(Linear Tape Open): Hewlett-Packard 社、IBM 社、Quantum 社の3社が共同開発した大容量高速テープフォーマット。

*3)Print Data Exchange 分散ライター: メインフレーム上の帳票印刷データを PC に転送し、オープンプリンタへの印刷や PDF 形式への変換を PC で行うことが可能なソフトウェア。

*4)「XDM/XT」: メインフレーム上のデータベース間、またはオープンサーバ上のスケーラブルデータベース「HiRDB」などとの間で、データの一括反映を可能にするソフトウェア。

5. コンパクトな新 LTO ライブラリ装置 L18/500 をサポート

「LTO ライブラリ装置」において、LTO Ultrium3 規格(*5)に準拠したドライブを採用し、従来製品よりもコンパクトな 8U(*6)サイズの製品を提供します。バックアップデータの増加に応じたドライブやメディアスロットの柔軟な拡張ができ、ドライブ拡張モジュール(8U)を追加することで、最大 113.6[TB](圧縮時)のデータを格納することが可能です。

*5): Ultrium3 規格: 「LTO」におけるテープフォーマット規格の第3世代。

*6): 1U=高さ 44.5mm

オペレーティングシステム「VOS3/LS」関連プロダクトの価格及び出荷時期

製品名	価格(*7)(月額、税込)	出荷時期
XDM/DCCM3	27万7200円 (税抜26万4000円)	2007年2月28日
DMFVTLs	15万7500円 (税抜15万円)	2007年4月
DMFOPDS	15万7500円 (税抜15万円)	
VOS3/Keymate	3万1500円 (税抜3万円)	

*7): AP8000/100EX プロセッサ使用時の料金です。

新 LTO ライブラリ装置の価格及び出荷時期

製品名	価格(税込)	出荷時期
L18/500	1039 万 5 千円 (税抜 990 万円)	2007 年 4 月

他社商標注記

- ・LTO、Linear Tape-Open、Ultrium は、米国における Hewlett-Packard Company、International Business Machines Corporation、Quantum Corporation の登録商標です。
- ・その他、記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

製品情報

<http://www.hitachi.co.jp/AP/>

取扱事業部・照会先

株式会社日立製作所 情報・通信グループ エンタープライズサーバ事業部 企画部【担当:中山】
〒259 - 1392 神奈川県秦野市堀山下1番地
電話:0463 - 87 - 6786(ダイヤルイン)

以上

オペレーティングシステム「VOS3/LS」の特長

1.日本版 SOX 法対応セキュリティ機能の強化

(1)XDM 監査情報拡充によるセキュリティ監査機能を強化

統合 DB/DC システム「XDM」では、セキュリティ監査機能として、DB アクセス等を監査証跡として記録し不正アクセスや不正操作等がなかったかを監査することができます。

今回、XDM 運用コマンドの実行履歴情報を取得することが可能となり、XDM サブシステムに対する運用管理者の不正操作などセキュリティ監査の拡充を図ることができます。

(2)XDM オンライン業務での機密保護機能を強化

データコミュニケーションシステム「XDM/DCCM3」において、端末からのログオン時またはトランザクション入力時に、総合利用者管理機能と連動した、ユーザーID と端末名称の組み合わせをチェックする機密保護チェック機能を提供します。

これにより、ユーザー毎に使用可能な端末を制限するなど木目細かな機密保護が行えます。

(3)監査証跡の複数データセット分散出力とマージ機能

「XDM」の監査証跡データを複数データセットに分散出力したり、分散出力したデータセットを1つのデータセットにマージする機能を提供します。これにより、大規模トランザクション処理での監査証跡データ取得や監査証跡データセットの集約による運用の省力化などを行うことができます。

(4)AES 暗号アルゴリズムをサポート

暗号ライブラリ VOS3/Keymate で、AES 暗号アルゴリズムをサポートします。ユーティリティを利用したり、JCL のパラメータを指定するだけで容易にデータの暗号化/復号化を行うことができます。

2.SOA 対応機能強化

Cosminexus Service Platform(SOA 基盤)と XDM/DCCM3 を連携させることにより、XDM システムの業務処理を SOA 基盤の「サービス」として利用したり、XDM の業務処理から SOA 基盤の「サービス」を容易に利用することができます。

3.ストレージ機能を強化

(1)仮想テープ業務の適用拡大

従来の SL、NL のラベル形式に加え、JL ラベル形式をサポートし、仮想テープ機能の利用可能な業務の適用拡大を図ります。これにより、処理時間の短縮や省力化など仮想テープ機能のメリットをより幅広い業務に適用可能となります。

(2)仮想テープ機能の運用性を向上

従来、スタンドアロン型仮想テープ機能では、磁気テープマウント処理ではコマンド投入が必要でした。今回、自動マウント機能を提供し、運用性の向上を図っています。

新 LTO ライブラリ装置 L18/500 の概略仕様(*1)

項目	仕様
テープドライブ	Ultrium3
ドライブ数	2台～5台
メディアスロット数	49～142
容量(非圧縮時)	最大 56.8[TB]
容量(圧縮時(*2))	最大 113.6[TB]
対応電源電圧	AC 200[V]
接続インターフェイス	ファイバチャネル
外形寸法 (H×W×D)	356×483×699[mm](基本モジュール) 356×483×699[mm](ドライブ拡張モジュール)

*1:AP8000EX と SCSI-GW 経由で接続する場合

*2: 圧縮時の値は、データ圧縮率を 2:1 とした場合(データ圧縮率はデータの内容により変化します)

他社所有商標に関する表示

- ・LTO、Linear Tape-Open、Ultrium は、米国における Hewlett-Packard Company、International Business Machines Corporation、Quantum Corporation の登録商標です。
- ・その他、記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

以上

このニュースリリース記載の情報(製品価格、製品仕様、サービスの内容、発売日、お問い合わせ先、URL 等)は、発表日現在の情報です。予告なしに変更され、検索日と情報が異なる可能性もありますので、あらかじめご了承ください。
